



藤田観光株式会社  
2023年12月期 第2四半期  
決算説明資料

2023年8月10日  
藤田観光株式会社  
(証券コード：9722)

# 損益計算書



FUJITA KANKO

2023年12月期 第2四半期決算説明資料

## 回復するインバウンド需要と国内観光需要を捉え、2Q累計で前年比108億円増収、57億円増益

▶2019年比では44億円の減収となるも、損益分岐点売上高が下がったことで20億円増益

			2023年 2Q累計 実績	2022年 2Q累計 実績	前年比	<参考> 2019年 2Q累計実績 ※	2019年比※	
	(百万円)	1Q実績 1~3月						2Q実績 4~6月
売上高		13,163	15,999	29,162	18,308	+10,854	33,605	▲4,442
	WHG事業	7,297	9,122	16,419	8,421	+7,998	18,394	▲1,975
	ラグジュアリー-&バンケット事業	3,718	4,941	8,660	6,628	+2,032	11,295	▲2,635
	リゾート事業	1,579	1,541	3,120	2,200	+920	2,681	+439
	その他（調整額含む）	567	394	962	1,058	▲95	1,233	▲270
営業損益		53	1,858	1,912	▲3,804	+5,716	▲153	+2,066
	WHG事業	280	1,609	1,889	▲2,621	+4,511	1,047	+841
	ラグジュアリー-&バンケット事業	▲36	682	646	▲403	+1,049	▲219	+865
	リゾート事業	▲69	▲330	▲400	▲586	+186	▲634	+234
	その他（調整額含む）	▲120	▲103	▲223	▲192	▲31	▲347	+124
経常損益		54	2,450	2,504	▲3,512	+6,017	▲64	+2,569
	特別利益	627	-	627	912	▲284	115	512
	特別損失	19	20	40	-	+40	120	▲79
	税金費用等	9	9	19	▲41	+60	62	▲43
親会社株主に帰属する四半期純損益		653	2,420	3,073	▲2,558	+5,632	▲131	+3,204

※ 組織変更により営業施設の属するセグメントを一部変更しているため、2019年度のセグメント別情報は変更後のセグメント区分に組替えた実績

# 損益計算書 (売上・営業利益推移)

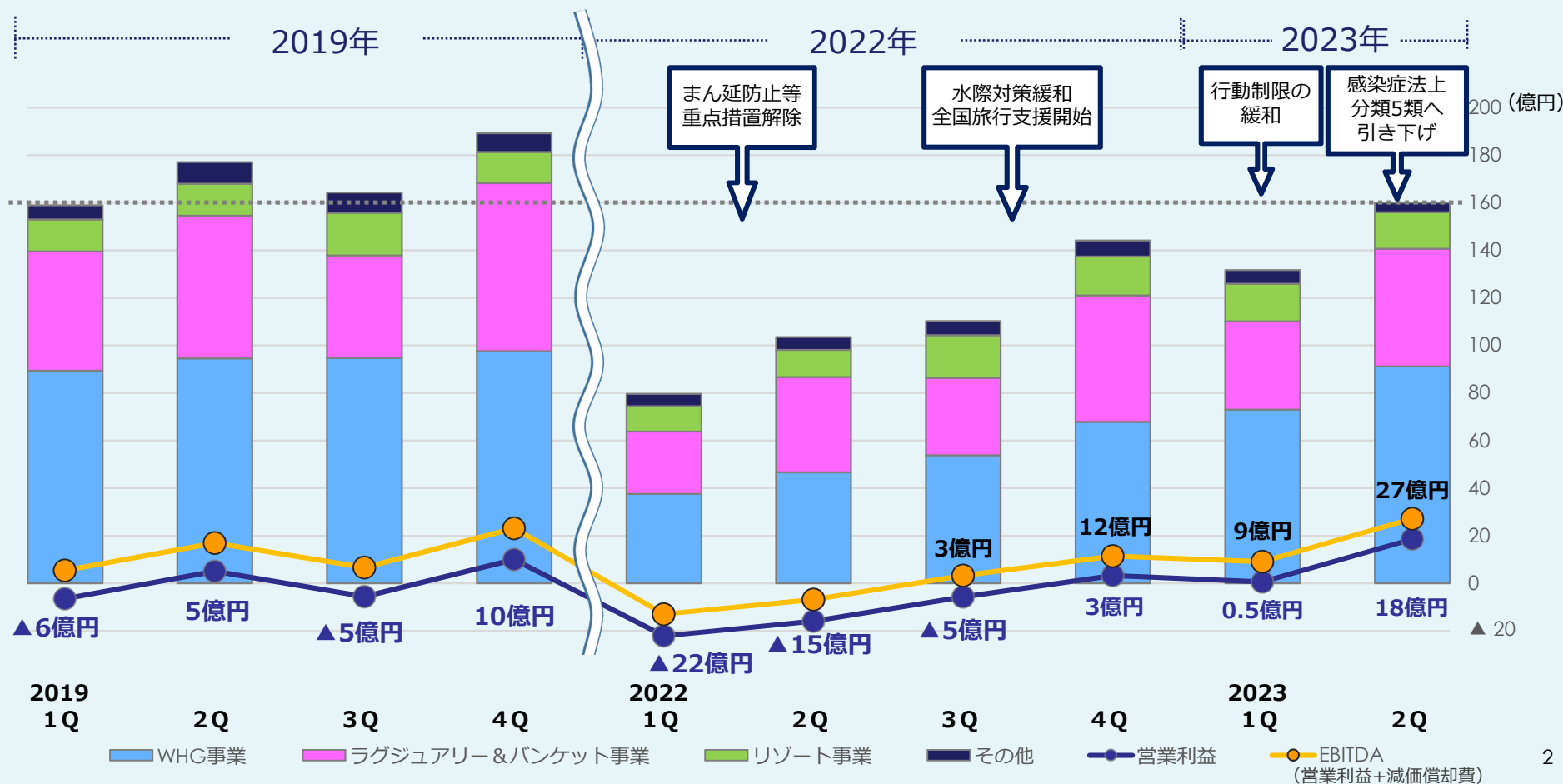


2023年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶ WHG事業においては2Q売上高が2019年並みまで回復
- ▶ リゾート事業においては2022年4Q以降、四半期売上高が2019年を上回る

四半期別売上高 2019年同期比	2022 4Q	2023 1Q	2023 2Q
WHG	70%	82%	97%
L&B	75%	74%	79%
リゾート	125%	118%	115%

## 売上高・営業利益推移

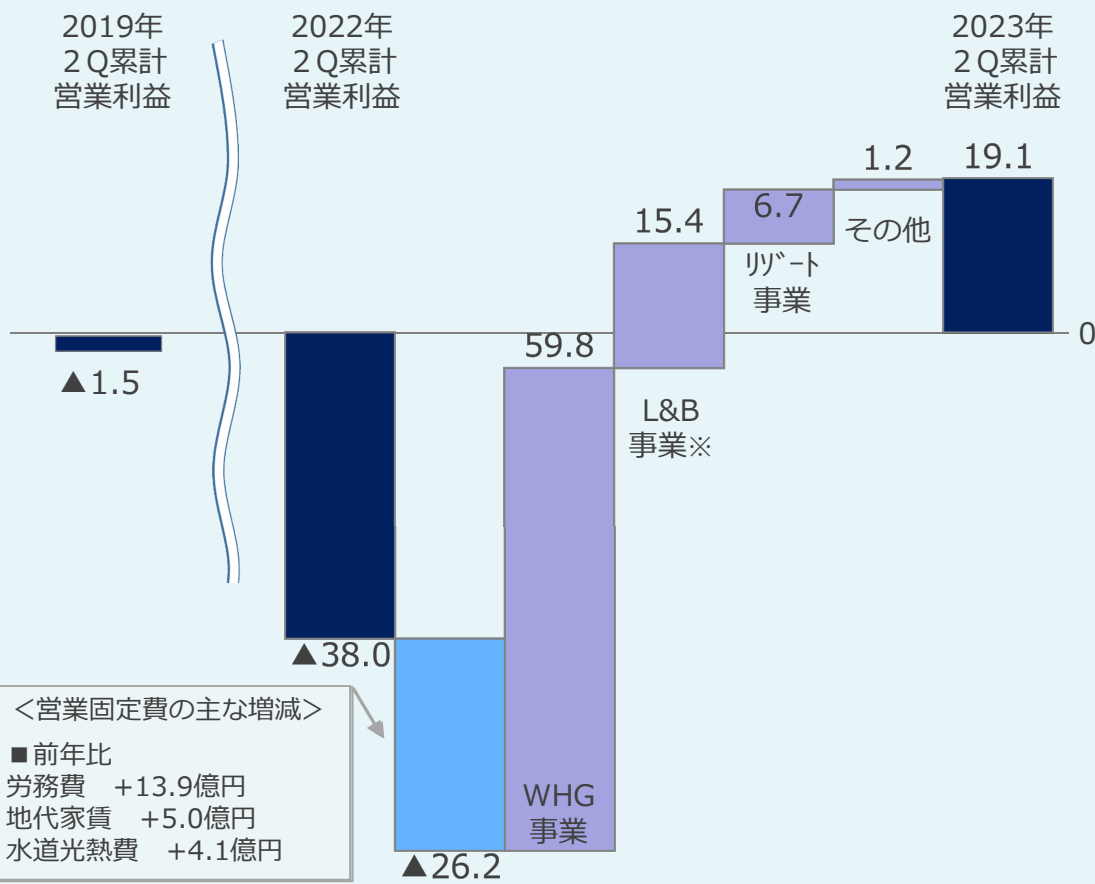


# 損益計算書 (営業利益増減要因)



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

## 営業利益 前年比増減要因



＜営業固定費の主な増減＞

- 前年比
  - 労務費 +13.9億円
  - 地代家賃 +5.0億円
  - 水道光熱費 +4.1億円

■参考 2019年比

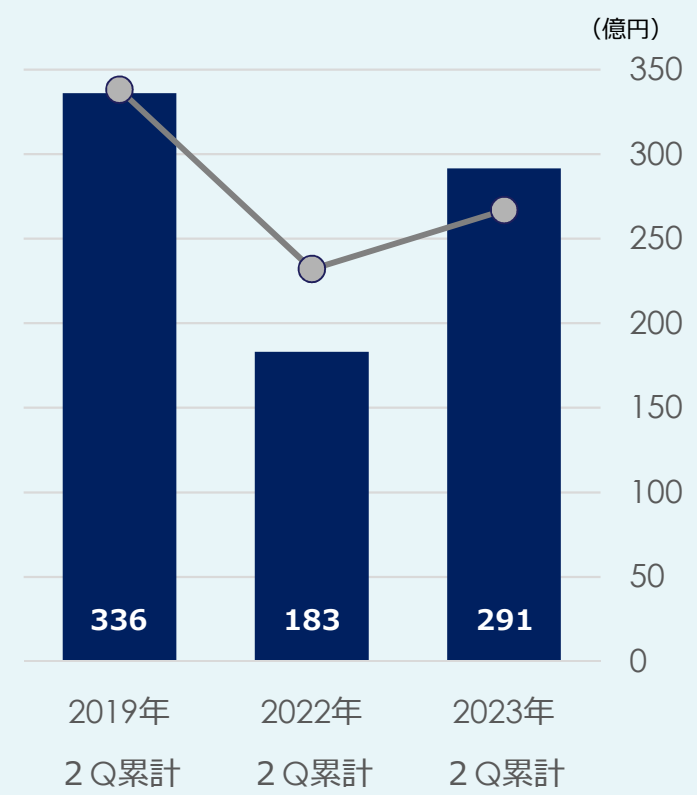
- 労務費 ▲28.6億円
- 減価償却費 ▲6.7億円
- 広告宣伝費 ▲1.7億円
- 租税公課 ▲1.5億円

営業固定費 増加

■ 限界利益増加分

※ラグジュアリー&バンケット事業

## 損益分岐点売上高の推移



■ 売上高 ● 損益分岐点売上高

# WHG事業 2Q概況



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

**東京・関西を中心にインバウンド宿泊者数が増加**  
**前年比79.9億円（95%）増収、45.1億円増益**  
**2019年比では19.7億円（11%）減収、8.4億円増益**

WH : ワシントンホテル  
 HG : ホテルグレイスリー

## <前年比>

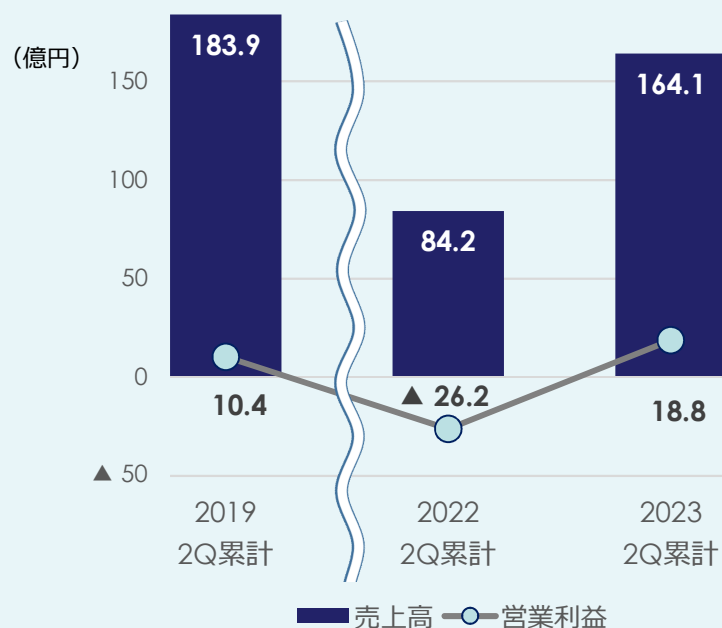
- 79億円増収、内45%は新宿WH・HG新宿が占める

※HG新宿は2月まで行政へ提供しており、3月より通常営業を再開

## <2019年比>

- 東京：新宿WH・HG新宿はADR・稼働率ともに上回る
- 東京以外：仙台WH、広島WH、HGソウルのADRは上回るも、その他事業所を含め稼働率は回復途上

## WHG事業 売上高・営業利益推移



## WHG 営業指標 前年・2019年との対比

1~6月	前年比		2019年比	
	ADR	稼働率	ADR	稼働率
全体	+82.7%	+25.1%pt	+5.7%	▲3.0%pt
東京	+118.8%	+26.2%pt	▲1.3%	+0.8%pt
東京以外	+48.2%	+22.3%pt	+10.8%	▲7.5%pt

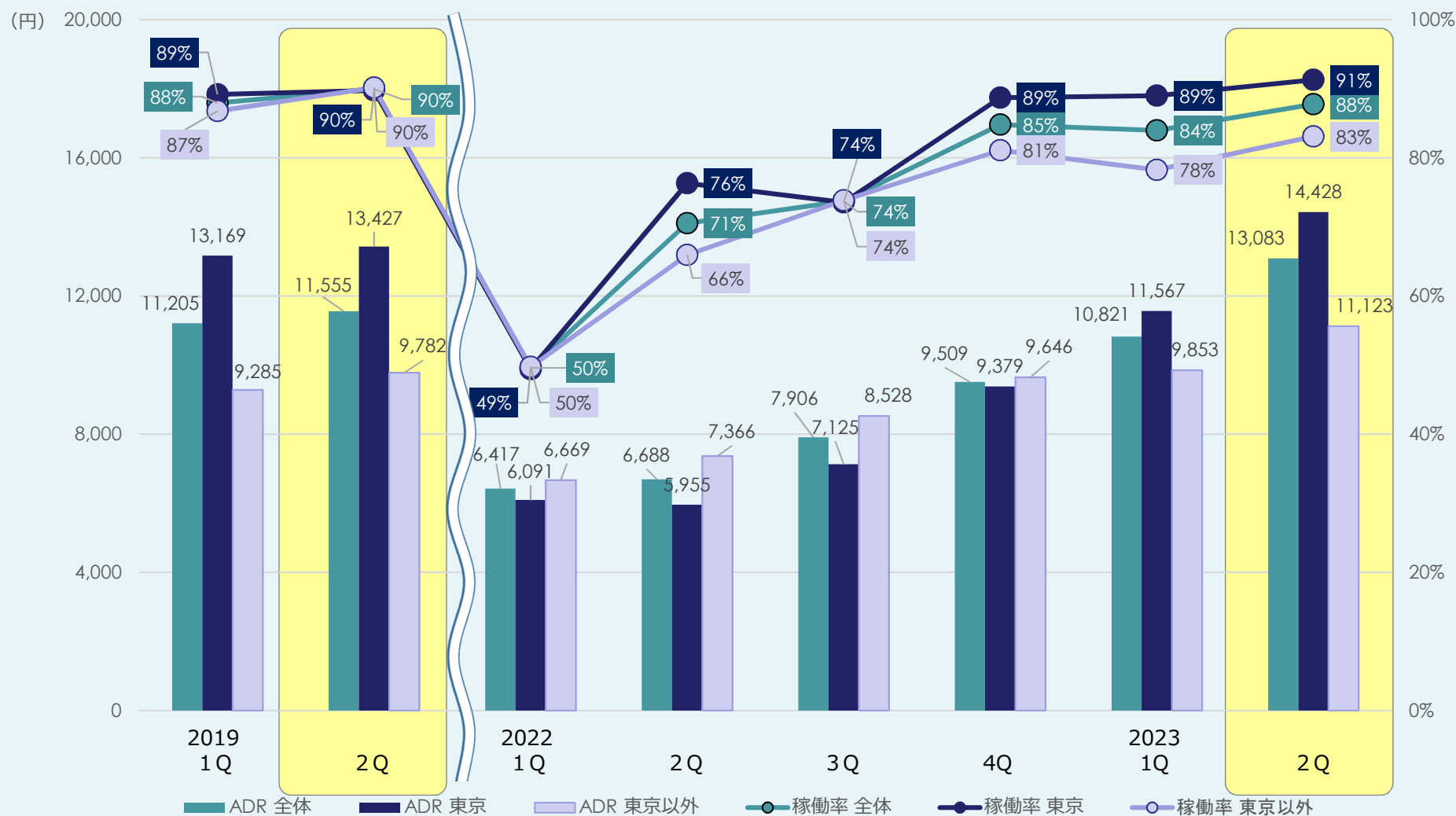
2019年2Q→2023年2Q  
 営業終了・営業形態変更影響 売上高▲25.4億円  
 (横浜伊勢佐木町WH、関西エアポートWH 他)  
 新規開業影響 売上高+15.8億円  
 (HG台北・大阪なんば、ホテルタビノス浜松町・浅草・京都)

# WHG事業 ADR・稼働率推移



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

- ・ 2023年1Q（1～3月）比では、ADR・稼働率ともに伸長
- ・ 2019年2Q（4～6月）比では、稼働率(東京以外) は及ばなかったものの、ADRは東京・東京以外いずれも上回る



# ラグジュアリー&バンケット事業 2Q概況



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

**「ホテル椿山荘東京」において全部門で前年比増収となり  
事業全体で20.3億円（31%）増収、10.4億円増益の6.4億円の営業黒字化  
2019年比では26.3億円（23%）減収、8.6億円の増益**

## 【ホテル椿山荘東京】

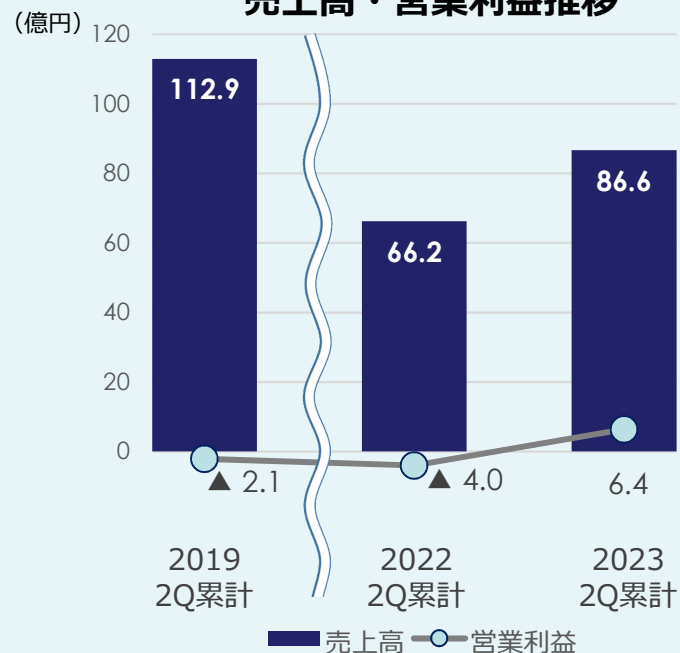
### <前年比>

- 宿泊部門：ADR・稼働率ともに上回り83%増収
- 婚礼部門：1件あたり人員が増加し6%増収
- 宴会部門：法人利用人員が増加し113%増収
- 料飲部門：宿泊稼働上昇に伴う朝食利用増により21%増収

### <2019年比>

- 宿泊部門はADR向上により29%増収
- 婚礼・宴会部門は利用人員減により  
婚礼部門で10%、宴会部門で21%減収

ラグジュアリー&バンケット事業  
売上高・営業利益推移



ホテル椿山荘東京 営業指標  
前年・2019年との対比

1~6月	前年比		2019年比	
	ADR	稼働率	ADR	稼働率
宿泊部門	+10.8%	+28.7%pt	+31.9%	+0.8%pt
婚礼部門	人員		人員	
	+13.6%		▲33.3%	
宴会部門	人員		人員	
	+129.6%		▲45.2%	

2019年2Q→2023年2Q  
営業終了影響 売上高▲22.3億円（太閤園、Share Clapping Fukuoka 他）

# リゾート事業 2Q概況



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

**「箱根小涌園 天悠」のADR、稼働率が上昇し、  
事業全体で前年比9.2億円（42%）増収、営業赤字1.8億円縮小  
2019年比では4.3億円（16%）増収、営業赤字2.3億円縮小**

## <前年比>

### 【箱根小涌園 天悠】

- インバウンドの平日利用が増加し稼働率が19.5%pt上昇
- 料理をグレードアップした高付加価値商品の販売等、単価向上施策を継続

### 【箱根小涌園ユネッサン】

- アニメとのコラボレーションイベントの継続実施やPR強化により入場人員が31%増加

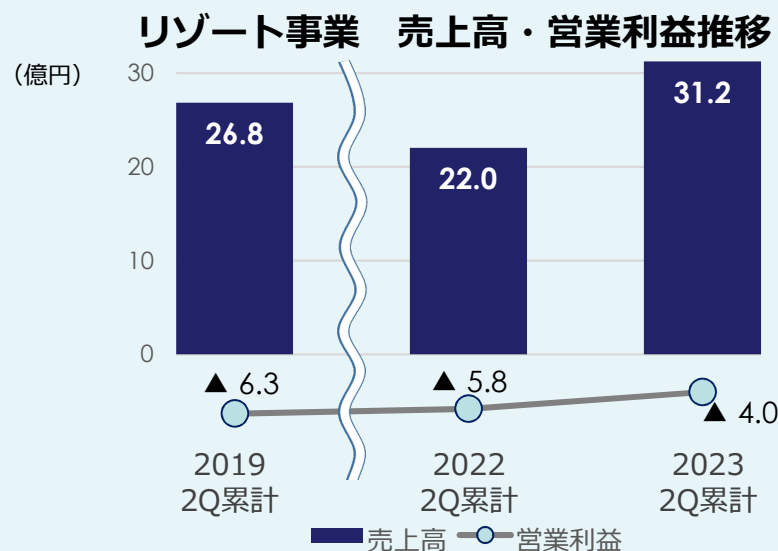
## <2019年比>

### 【箱根小涌園 天悠】

- 国内、インバウンドともに宿泊者数が増加し、ADR、稼働率が上昇

### 【箱根小涌園ユネッサン】

- 入場人員は2019年並みまで増加



## 営業指標 前年・2019年との対比

1~6月	前年比		2019年比	
	ADR	稼働率	ADR	稼働率
箱根小涌園 天悠	+22.8%	+19.5%pt	+22.0%	+9.0%pt
箱根小涌園 ユネッサン	入場 人単価	入場 人員	入場 人単価	入場 人員
	+5.5%	+31.2%	▲5.4%	▲1.3%

2019年2Q→2023年2Q

新規開業・セグメント変更・営業終了影響 売上高+3.4億円（藤乃焔 富士御殿場、永平寺 親禪の宿 柏樹関 他）



# 部門別売上高



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

## 部門別売上高（1～6月）

(百万円)	部門	売上高実績	前年比	前年比 (%)	2019年比 ※1	2019年比 (%)
W H G	宿 泊	14,841	+7,267	+96%	▲511	▲3%
	その他※2	1,578	+730	+86%	▲1,463	▲48%
ラグジュアリー & バンケット	宿 泊	1,459	+660	+83%	+331	+29%
	婚 礼	3,323	+226	+7%	▲1,541	▲32%
	宴 会	1,520	+807	+113%	▲1,023	▲40%
	料 飲	1,534	+267	+21%	▲493	▲24%
	その他※2	822	+70	+9%	+91	+13%
リゾート	宿 泊	2,437	+745	+44%	+533	+28%
	日帰り・レジャー	583	+157	+37%	▲18	▲3%
	その他※2	99	+17	+22%	▲76	▲43%
参考	宿泊部門合計	18,737	+8,673	+86%	+353	+2%

※1 組織変更により営業施設の属するセグメントを一部変更しているため、2019年度のセグメント別情報は変更後のセグメント区分に組替えた実績  
 ※2 その他：セグメント間の内部売上を含む

# インバウンドの状況



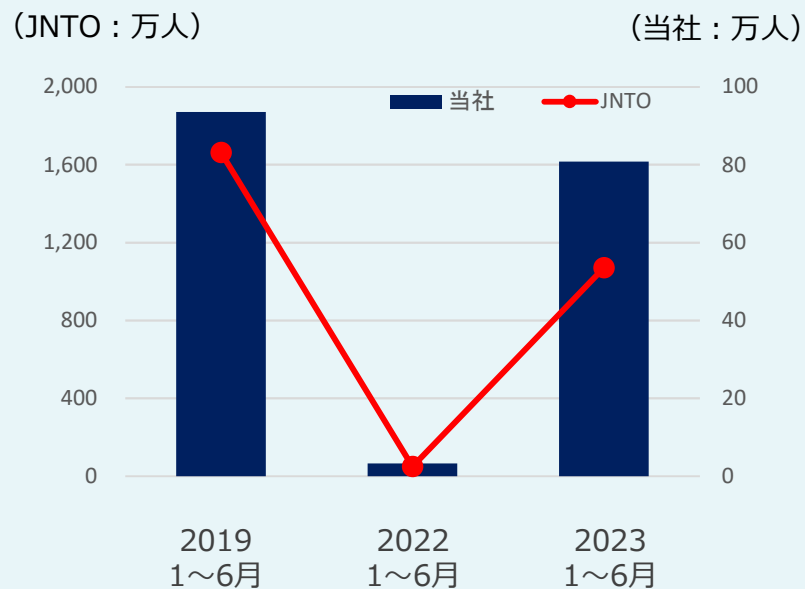
2023年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶インバウンド比率は44.3%まで上昇  
(2019年比▲1.2%pt)
- ▶国別シェアでは韓国(24%)が最多

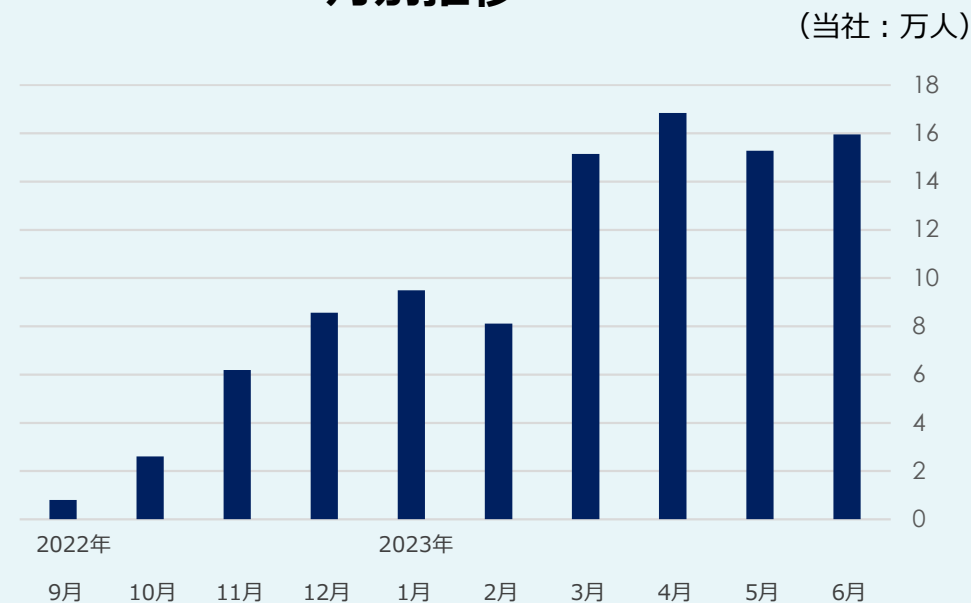
	2023年 1~6月	2019年 1~6月	2019年比
当社インバウンド 宿泊者数	80万人	93万人	▲13.6%
当社総宿泊者数	182万人	205万人	▲11.3%
インバウンド比率	44.3%	45.4%	▲1.2%pt
JNTO	1,071万人	1,663万人	▲35.6%

※JNTO(日本政府観光局) 2023年7月19日発表 訪日外客数より

## 当社インバウンド宿泊者数



## 月別推移



# 貸借対照表



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

▶ A種優先配当金支払い等により資本剰余金が減少した一方、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加し、純資産は前期末比28億円増加の256億円

	2021年末	2022年末	当四半期末
純資産	288億円	227億円	256億円
自己資本比率	25.4%	22.6%	26.6%

(百万円)

<資産>	2023年6月	2022年12月	増減	主な増減要因
流動資産合計	24,349	30,947	▲6,597	現預金の減少
固定資産合計	71,913	69,015	+2,898	箱根小涌園再開発に伴う資産取得による増加
資産合計	96,263	99,962	▲3,699	
<負債・純資産>	2023年6月	2022年12月	増減	主な増減要因
流動負債合計	27,688	27,321	+367	
固定負債合計	42,966	49,901	▲6,935	
負債合計	70,654	77,222	▲6,567	借入金返済等による減少
純資産合計	25,608	22,740	+2,868	A種優先配当金支払い等による資本剰余金の減少 四半期純利益の計上による利益剰余金の増加
負債純資産合計	96,263	99,962	▲3,699	

# キャッシュ・フロー計算書



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶ 営業損益黒字化により営業キャッシュ・フローは30億円のキャッシュイン
- ▶ 「箱根ホテル小涌園」建設代金支払い等で投資キャッシュ・フローは41億円のキャッシュアウト

(百万円)

	2023年2Q	2022年2Q	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	3,003	▲1,251	+4,255
投資活動による キャッシュ・フロー	▲4,131	▲793	▲3,337
フリーキャッシュ・フロー	▲1,128	▲2,045	+917
財務活動による キャッシュ・フロー	▲5,021	▲5,162	+140
現金および現金同等物の期末残高	18,023	31,450	▲13,427

# 2023年12月期 通期業績予想修正



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶WHG事業 …先行予約状況を踏まえ、ADRの上昇を見込み上方修正
- ▶ラグジュアリー-&バンケット事業 …宿泊部門ではADRの上昇を見込む一方、婚礼・宴会部門の人員減を織り込み下方修正
- ▶リゾート事業 …先行予約状況を踏まえ、ADRの上昇を見込み上方修正

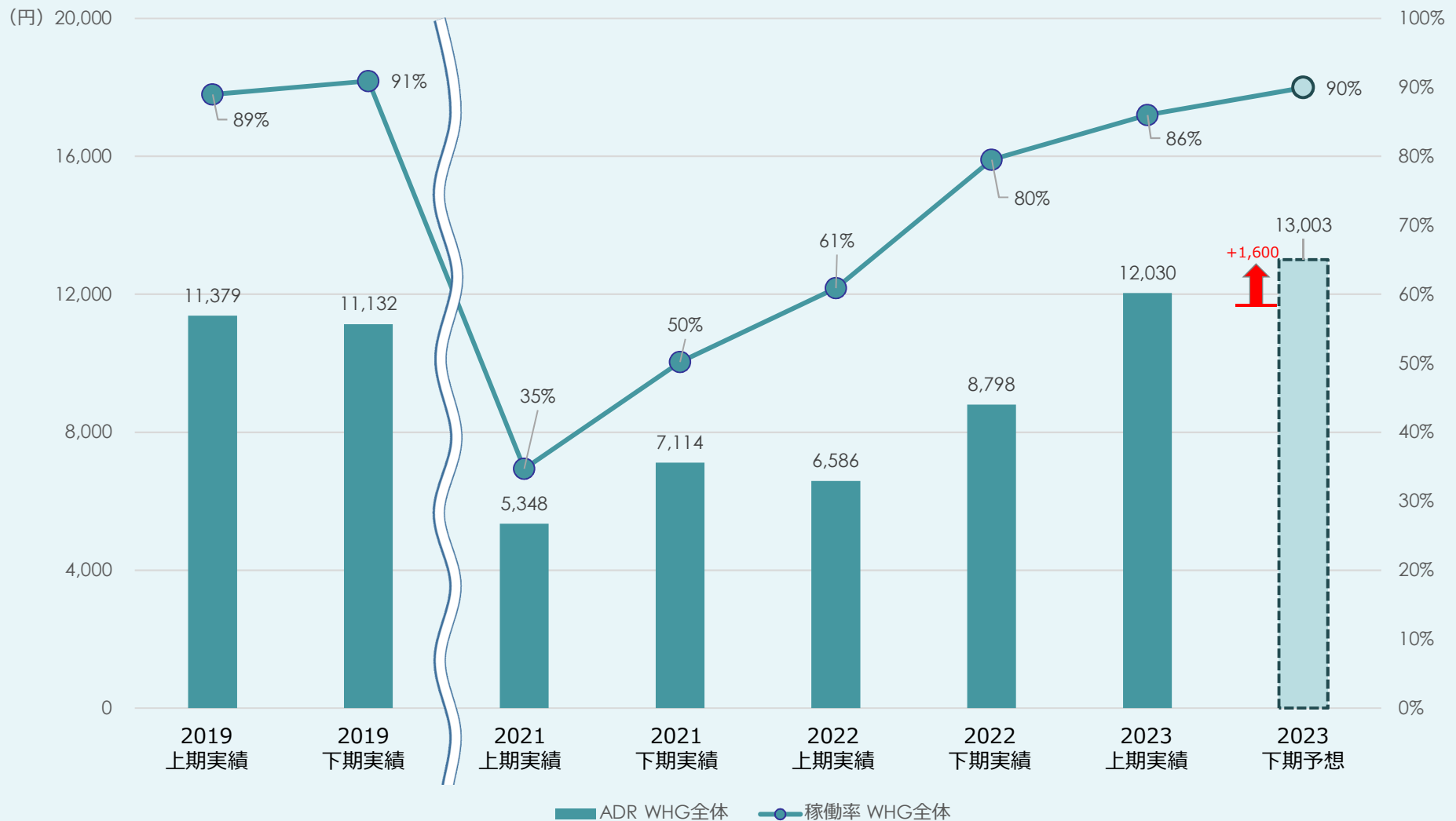
(百万円)	上期 (1~6月)			下期 (7~12月)			通期		
	実績	5/11発表 予想	予想比	見直し後 予想	5/11発表 予想	前回 予想比	見直し後 予想	5/11発表 予想	前回 予想比
<b>売上高</b>	<b>29,162</b>	28,800	+362	<b>32,837</b>	32,000	+837	<b>62,000</b>	60,800	+1,200
WHG事業	<b>16,419</b>	16,300	+119	<b>18,580</b>	17,000	<b>+1,580</b>	<b>35,000</b>	33,300	<b>+1,700</b>
ラグジュアリー-&バンケット事業	<b>8,660</b>	8,500	+160	<b>8,739</b>	9,400	<b>▲660</b>	<b>17,400</b>	17,900	<b>▲500</b>
リゾート事業	<b>3,120</b>	3,000	+120	<b>4,879</b>	4,800	<b>+79</b>	<b>8,000</b>	7,800	<b>+200</b>
その他 (調整額含む)	<b>962</b>	1,000	<b>▲37</b>	<b>637</b>	800	<b>▲162</b>	<b>1,600</b>	1,800	<b>▲200</b>
<b>営業損益</b>	<b>1,912</b>	1,100	+812	<b>2,887</b>	2,600	+287	<b>4,800</b>	3,700	+1,100
WHG事業	<b>1,889</b>	1,500	+389	<b>2,510</b>	1,550	+960	<b>4,400</b>	3,050	+1,350
ラグジュアリー-&バンケット事業	<b>646</b>	450	+196	<b>303</b>	900	<b>▲596</b>	<b>950</b>	1,350	<b>▲400</b>
リゾート事業	<b>▲400</b>	<b>▲550</b>	+149	<b>250</b>	200	+50	<b>▲150</b>	<b>▲350</b>	+200
その他 (調整額含む)	<b>▲223</b>	<b>▲300</b>	+76	<b>▲176</b>	<b>▲50</b>	<b>▲126</b>	<b>▲400</b>	<b>▲350</b>	<b>▲50</b>
<b>経常利益</b>	<b>2,504</b>	1,000	+1,504	<b>2,795</b>	2,500	+295	<b>5,300</b>	3,500	+1,800
<b>当期純利益</b>	<b>3,073</b>	1,600	+1,473	<b>2,826</b>	2,500	+326	<b>5,900</b>	4,100	+1,800

# 2023年12月期 業績予想の前提（WHG事業営業指標）



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

- ▶ 上期実績 …ADRが前回予想（5/11発表）+100円程度で推移
- ▶ 下期予想 …稼働率は前回予想並み、ADRは前回予想比+1,600円程度を見込む



# 箱根小涌園再開発



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

## 2023年7月12日 箱根ホテル小涌園 開業

	箱根ホテル小涌園 2023年7月12日開業	旧箱根ホテル小涌園 2018年1月10日営業終了
客室数	150室	224室
施設概要	レストラン1（ビュッフェ）、大浴場2、貸切風呂7、屋外プール、キッズスペース、コミュニティスペースなど	レストラン6（ビュッフェ・和食・フレンチ他）、ラウンジ1、宴会場4、会議室7、大浴場2、屋外プール、売店など
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞在中はユネッサン、森の湯に何度でも入場可能</li> <li>・自動チェックイン チェックアウト機を導入</li> <li>・ホテル内は原則キャッシュレス決済</li> <li>・ウェルカムベビーのお宿認定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1959年（昭和34年）開業</li> <li>・宴会場や会議室を備え、団体旅行にも対応</li> </ul>
主要ターゲット	ファミリー層を中心とした個人旅行	団体旅行からファミリー旅行まで幅広い層
価格帯	お一人様当たり平均18,000円を想定（1泊2食）	お一人様あたり15,000円前後（1泊2食）

▶足元（7月、8月）においては、ADR、稼働率ともに計画を上回る進捗



# 箱根小涌園再開発（箱根小涌園全体図）



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

▶新ホテル開業、ユネッサンリニューアルにより、既存施設と合わせて幅広い層のお客様のニーズに対応

「自然と和のおもてなし」  
**天悠**

- ✓ 全客室に温泉露天風呂を完備
- ✓ 渓谷庭園を望む足湯温泉が新たにオープン



全天候型アミューズメントパーク  
**ユネッサン**

- ✓ 流れるプールオープン！
- ✓ ARデジタルゲームや縁日エリアも登場



手ぶらで楽しめる  
やまのね  
**キャンプ&スパ山の音**



国登録有形文化財建造物  
**蕎麦 貴賓館**  
鉄板焼・しゃぶしゃぶ 迎賓館



国登録有形文化財建造物  
**三河屋旅館**



カジュアルなホテル  
みやまふらりん  
**美山楓林**



ユネッサンと一体的に  
「温泉」「自然」「食事」を体験できるホテル  
**箱根ホテル小涌園**

**NEW!**

箱根最大級の本格日帰り温泉  
**元湯 森の湯**

- ✓ 貸切風呂「別邸 やすらぎ」を増設
- ✓ バリアフリーにも対応



宿泊 レジャー レストラン



# 施設一覧 (2023年8月10日現在)



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

WHG事業		リゾート事業		ラグジュアリー&バンケット事業	
<b>「宿泊」 36拠点 10,827室</b>		<b>「宿泊」12拠点 565室</b>		<b>「宿泊」 1拠点 267室</b>	
<b>■ワシントンホテル</b> (21拠点 6,619室)		<b>■ホテルグレイスリー</b> (11拠点 3,198室)		ホテル椿山荘東京 267室	
				<b>「婚礼・宴会」 3拠点</b>	
仙台	223室	札幌	440室	マリーエイド (広島県)	
新宿 (本館)	1,280室	銀座	270室	ルメルシエ元宇品 (広島県)	
秋葉原	369室	田町	216室	ザ サウスハーバーリゾート (広島県)	
東京ベイ有明	830室	浅草	125室	<b>「レジャー」 1拠点</b>	
横浜桜木町	553室	新宿	970室	カメラリアヒルズカントリークラブ (千葉県)	
浦和	140室	京都三条 (北館)	97室	<b>「レストラン」 2拠点</b>	
広島	266室	京都三条 (南館)	128室	東京大学伊藤国際学術研究センター内 レストラン【MC】	
キャナルシティ・福岡	423室	大阪なんば	170室	明治大学 紫紺館 フォレスト椿山荘【MC】	
山形七日町【FC】	213室	那覇	198室	<b>その他事業</b>	
山形駅西口【FC】	100室	ソウル	336室	<b>「宿泊」 1拠点 214室</b>	
会津若松【FC】	154室	台北	248室	ISORAS CIKARANG イソラス チカラン 214室 (インドネシア サービス・アパートメント)	
郡山【FC】	184室			<b>海外現地法人・駐在員事務所</b>	
いわき【FC】	148室	<b>■ホテルフジタ (1拠点 354室)</b>		上海	
立川【FC】	170室	福井【FC】	354室		
木更津【FC】	146室				
燕三条【FC】	103室	<b>■ホテルタピノス(3拠点 656室)</b>			
関西エアポート【FC】	504室	浜松町	188室		
関空泉大津【FC】	151室	浅草	278室		
宝塚【FC】	135室	京都	190室		
佐世保【FC】	190室				
新宿 (新館)【MC】	337室				
		<b>「レストラン」 3拠点</b>			
		レストランあかしあ亭 (秋田県)			
		箱根小涌園 蕎麦 貴賓館			
		箱根小涌園 鉄板焼・しゃぶしゃぶ 迎賓館			
		<b>「レジャー」 5拠点</b>			
		箱根小涌園ユネッサン			
		箱根小涌園 元湯 森の湯			
		箱根小涌園キャンプ&スパ 山の音			
		Fuji Camp Base 焔 (藤乃焔 富士御殿場 敷地内)			
		下田海中水族館			

FC：フランチャイズ方式  
 所有と経営・運営ともにオーナー企業に帰属し、  
 当社はブランド使用権の貸与と運営を指導

MC：マネジメントコントラクト方式  
 所有と経営はオーナー企業に帰属し、当社は運営  
 を受託

# 会社概要



2023年12月期 第2四半期決算説明資料

上場取引所	東京証券取引所プライム市場	
社名	藤田観光株式会社	
証券コード	9722	
単元株式数	普通株式 100株	
	A種優先株式 1株	
事業年度	毎年1月1日～12月31日	
基準日	12月31日	
配当金支払株主確定日（普通株式）	12月31日および中間配当を実施するときは6月30日	
定時株主総会	毎年3月	
発行済株式の総数	普通株式 12,207,424株	計 12,207,574株
	A種優先株式 150株	
発行可能株式総数	普通株式 44,000,000株	計 44,000,150株
	A種優先株式 150株	
決算期	毎年12月31日	

IR担当部門 （お問合せ先）

藤田観光株式会社 企画本部 経理・財務IR部

TEL : 03-5981-7727

<https://www.fujita-kanko.co.jp/ir/index.html>

注意事項：

当資料は、藤田観光グループの業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。  
また、注記を行っている場合を除き、2023年6月30日現在のデータに基づいて作成しております。  
尚、当資料に掲載された予測等は作成時点での当社の判断であり、経営環境の変動により今後変更される可能性がありますのでご了承ください。  
当資料の転載はご遠慮ください。